



# 高齢化への備えとケアエコノミーに関する アジア国会議員会議

2024年7月18日  
マレーシア・クアラルンプール

## エグゼクティブサマリー

AFPPDマレーシアは、クアラルンプールで「高齢化への備えとケアエコノミーに関するアジア国会議員会議」と題して、重要な会議を開催した。この会議には、マレーシアをはじめ、アジア各国から国会議員、政策立案者、専門家、関係者が集まり、人口動態、持続可能な開発、コミュニティのエンパワーメントを含む高齢化に関する差し迫った問題について議論を行った。高齢化社会への対応、革新的な技術の活用、介護者支援を向上させるための戦略強化や評価についても議論を進めた。

会議には次の3つの目的があった。第1に、現在のアジア各国における活力ある高齢化に関するプログラムを評価し、AIと技術によるソリューション（解決策）に焦点を当て、改善すべき分野を特定すること。第2に、高齢者介護のための既存のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を再評価し、UHC強化と地域支援の統合について議論すること。第3に、マレーシアや他のASEAN諸国の介護従事者が直面する課題を特定し、遠隔モニタリングシステムなどの技術的介入を含む革新的な解決策を提案することである。

具体的なセッション内容について、セッション1は、UHCと高齢化社会への対策に焦点を当て、活力ある高齢化に関するプログラムの評価、UHCの評価、介護従事者支援について議論を行った。セッション2は、技術的支援を中心に、AI、ロボット工学、デジタルヘルスソリューションが高齢者ケアに与える影響や、支援のための技術革新について取り上げた。セッション3は、ケアエコノミーについて掘り下げ、介護サービスと雇用機会の拡大におけるテクノロジーと官民パートナーシップの役割を検証した。セッション4では、介護者の認識、支援への取り組み、資金調達モデルなど、ケアエコノミーの今後について意見を交わした。

本会議は、国連人口基金（UNFPA）アジア太平洋地域事務所（APRO）の協力を得て、アジア人口・開発協会（APDA）が実施した。



# 目次

背景 & 目的	1
参加者	2
開会式	3-7
セッション 1 & ディスカッション	7-17
セッション 2 & ディスカッション	17-22
セッション 3 & ディスカッション	23-27
セッション 4 & ディスカッション	27-32
閉会式	32
会議プログラム & 参加者リスト	33-36



## A. 背景

AFPPDマレーシアは、人口動態や持続可能な開発、コミュニティのエンパワーメントに関する重要な問題に関する議論を行い、これらに対処することを目的とした組織である。APDAは、人口問題に関する調査研究と国際協力を通じて、社会・経済の発展を促進し、福祉と平和を向上させ、地球規模の持続可能な開発を達成することを目指している。

7月18日、AFPPDマレーシアとAPDAは、マレーシア・クアラルンプールで国内及びその他のアジア諸国から国会議員、政策立案者、専門家、関係者らを招き、「高齢化への備えとケアエコノミーに関するアジア国会議員会議」を共催した。この会議は、アジア地域の高齢化に関する課題への対策と、高齢化を好機として捉えて活用する方策に焦点が当てられた。会議では、国会議員、政府関係者、産業界のリーダー、世界的な専門家など著名な講演者が登壇し、高齢化とケアエコノミーに関連する重要課題について、高齢者ケアと経済的な回復力に対する革新的なアプローチの必要性をはじめ、それぞれの見識や戦略を共有した。

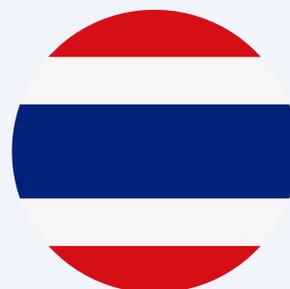
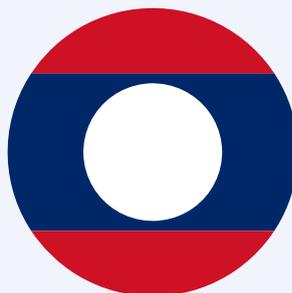
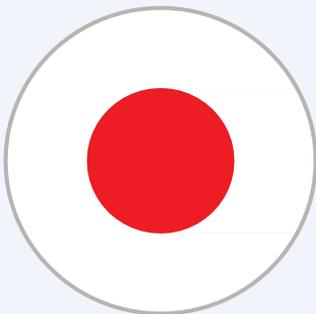
## B. 目的

1. 効果的な高齢者ケアのための戦略と政策の策定に焦点を当て、高齢化がもたらすアジア地域の課題に取り組む。
2. 高齢化への備えとケアエコノミーに対する革新的な解決策、画期的なアプローチを議論・共有し、各国が人口動態の変化に弾力性と効率性をもって適応できるようにする。
3. マレーシア及び他のASEAN地域の国会議員、政策立案者、専門家の連携を促進し、高齢化に関連する社会的・経済的成果を改善するための協力的な取り組みや 知識の共有を促進する。



## ✻ C. 参加者

「高齢化への備えとケアエコノミーに関するアジア国会議員会議」には、アジア・太平洋地域の10カ国（マレーシア、ネパール、インド、インドネシア、日本、ラオス、フィリピン、ベトナム、カンボジア、タイ）からの国会議員、国内委員会、並びに国連人口基金（UNFPA）、その他の関係者など75名が参加した。（詳細は、Attachment 2：参加者リスト参照）



## ✪ D. プレゼンテーション & ディスカッション

### 開会挨拶

AFPPDマレーシアのメンバー議員、副大臣、UNFPAマレーシア代表、その他の各国代表議員など、多くの要人が出席し、マレーシア国会議長が開会挨拶を行った。



写真左上： Howard Lee Chuan How議員・AFPPDマレーシア副議長

**Howard Lee Chuan How 議員（マレーシア）**：参加者並びに会議開催に携わった関係者の尽力に感謝を表し、この会議が大きなインパクトを持つことを強調したい。

- ・ 会議は当初、自身の選挙区である北部Tara州で開催される予定であったが、クアラルンプールでの大規模なイベントへと発展した。人口と開発、技術支援、人工知能、UHC、持続可能なエネルギー、女性の労働参加の拡大など、重要な政策に関わる議論を取り上げることの重要性を強調したい。
- ・ 地域的・世界的に人口と開発のアジェンダを前進させるためにも、本会議の成功と、有意義な議論を祈念する。



## 開会挨拶



写真中央 : Dato Sri Alexander Nanta Linggi 議員・公共事業大臣・AFPPDマレーシア議長

**Dato Sri Alexander Nanta Linggi 公共事業大臣（マレーシア）**：会議参加者を温かく歓迎し、AFPPDマレーシア事務局の主催者としての努力に感謝の意を表したい。この会議は、高齢化社会に関する重要課題について議論を行う重要な会議である。アジア・太平洋地域には全世界における60歳以上の人口の半分以上が住んでおり、この人口グループは今後大幅に増加すると予測されている。2050年までに、この地域には約13億人の高齢者が住むことになり、そのうちの大半が女性であると推定されている。これは世界的な高齢化社会への転換を反映しており、マレーシアでも65歳以上の人口比率が2024年の8.1%から2040年には14.5%に上昇すると見込まれている。この人口動態の変化により、マレーシアは高齢社会に移行し、2040年までに600万人以上の高齢者が暮らすことが見込まれている。

とりわけ高齢の女性は、年齢差別とジェンダー差別の複合的な影響を受けている。彼女たちは、二重の差別により、特定の雇用機会を与えられず、国によっては不当な退職規制の悪影響を受けている。例えば、中国やベトナムでは、女性は男性よりも定年退職年齢が低く、その結果、著しい男女格差が生じている。この差別はキャリアの発展を制限し、経済的な安定性にも影響する。農村と都市の移動の問題もある。若年層が都市部に移住し、高齢の親が農村部で孤立するケースが多く見られる。



こうした傾向は、日本やマレーシアの一部地域を含む多くの国で見られる。この問題に対処するためには、若年層が地方に定住または移住することを奨励するための経済的優遇措置や、高齢化による労働人口の減少に対処するための政策実施など、積極的な対策が必要である。シンガポールでは、高齢化問題委員会の設立や、世代間居住を促進するための地域の再開発など、積極的な対策を講じている。マレーシアもまた、高齢化社会の課題解決や雇用機会促進のための取り組みとして、包括的な高齢化国家アジェンダと行動計画を策定している。これには、高齢者のニーズに対応するための都市計画や、生活環境の改善も含まれている。マレーシアでは非正規労働者が増加しているが、特に女性の非正規労働者数が増加し、社会的保護の欠如や経済的不安などに直面している。これを受けて、マレーシアは2024年度予算で「非正規労働者のための社会保護制度」を導入し、医療保障や障がい補償など非正規労働者を包括的に保護することを定めた。この制度は、インフォーマル・セクターで働く女性を支援し、経済的な安定を確保することを目的としている。またマレーシアは、尊厳と敬意に基づいて高齢者ケアに取り組むことの重要性を説き、高齢者ケアの意識向上と改善のための協力体制を呼びかけている。

高齢化社会の課題に緊急に取り組み、高齢者が充実した生活を送れるような環境を整備する必要性を強調し、開会の挨拶としたい。アジア地域の人口・開発アジェンダ推進において、マレーシアが指導的役割を果たせることを示したい。会議で実りある議論と新たなパートナーシップの発展も期待している。また、世界の65歳以上の人口は2050年までに2倍以上になると予測されており、高齢化問題に取り組む包括的な国家計画の必要性と、高齢化する人口をより良い方法で支援し、全体的な幸福を向上させるために、社会保護プログラムや医療サービスへの投資を呼びかけたい。

## 主な提言

- 社会保護プログラムと医療サービスに投資し、強化する。
- 高齢者のための持続可能な資金調達メカニズムを確立する。
- 労働年齢人口、及び全ての人のために、より生産的で働きがいのある仕事を提供する。
- 高齢者の生活の質を向上させ、家族の世話を必要としない生活を可能にする新技術や解決策の開発に向けた研究と技術革新に投資する。
- 介護労働の価値と重要性を認識し、その枠組みにおける責任分担を促進する。



## 開会挨拶



### Tan Sri Dato' Johari Bin Abdul 国会議長（マレーシア）

：本会議の開催を歓迎し、高齢化とケアエコノミーに関連する問題に取り組む上での国際的な協力と連帯の重要性を強調したい。高齢化は人類にとって根源的な側面であり、高齢者人口がますます増加する世界的な傾向は顕著である。世界の65歳以上の人口は、2050年までに16億人を超えると予想されている。特にアジア太平洋地域は高齢化が加速しており、現在世界の高齢者人口の60%を占めている。

高齢者ケアに関連する雇用や経済活動を含むケアエコノミーは、世界の雇用の約11.5%を占め、年間11兆ドルの貢献が見込まれる重要な分野である。

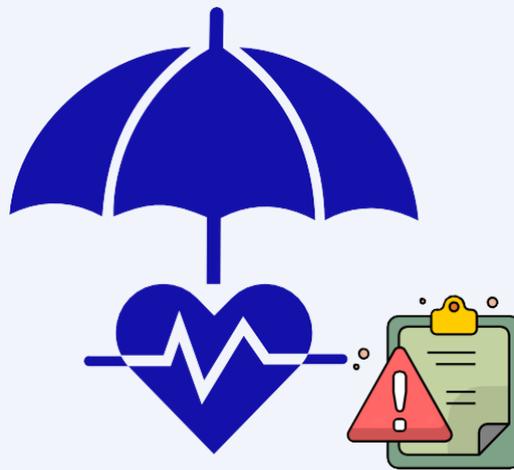
高齢化がもたらす課題に対処するためには、以下の対応が必要である。

- 社会保護と医療制度の強化
- 高齢者ケアのための持続可能な資金メカニズムの開発
- 生産年齢人口のスキルの向上と、高齢者のための質の高い雇用の創出
- 高齢者ケアを改善し、自立した生活を促進するための研究とイノベーションへの投資
- 介護労働の負担軽減と役割分担

マレーシア政府は、高齢者国家政策や、民間高齢者医療制度・サービス法（Private Aged Healthcare Facilities and Services Act）などの政策的・法的枠組みを通じて、高齢者の福祉向上に積極的に取り組んでいる。こうした政策の継続的な見直しと更新は、高齢化人口の進化するニーズに対応することを目的としている。



今後、マレーシアは2030年までに高齢化国家へと移行するため、政府は強固な介護システムの開発や介護者支援、介護サービスにおける技術革新の促進に力を入れている。女性・家族・地域開発省は、介護業界のための包括的な行動計画を作成する取り組みを主導している。高齢化社会への備えには、あらゆるセクターの総力を結集する必要がある。国会議員は、高齢者のための政策を策定し、提言活動を行い、効果的な政策を実施する上で極めて重要な役割を担っている。最後に、高齢化社会の課題に取り組む上で、一致団結した行動、協力、前向きな姿勢を呼びかけたい。



## SESSION 1

### ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と高齢化への備え





Liew Chin Tong マレーシア通商産業（MITI）副大臣

**Hon. Liew Chin Tong 通商産業副大臣（マレーシア）**：過去50年間、アジア社会は経済発展において著しい進歩を遂げたが、その主な理由は、豊富な若い労働力と低賃金にあった。このような成長には差し迫った問題がある。それは、現在のモデルで経済発展を維持できるのかという疑問である。このような社会は、実質的な改善や進歩することなく、単に高齢化だけが進展していくという課題に直面している。香港の事例を見れば、かつて自由主義経済で繁栄を遂げたが、現在では非自由主義的と見なされる慣行に移行するなど、低税率の小規模国家における規制緩和の複雑な先例を示している。香港は経済自由主義の典型であったが、最近の動向は、金融規制緩和や住宅・教育の金融化など、新自由主義の世界的な影響を如実に示している。2008年の世界金融危機は、このモデルの欠陥を露呈させ、欧米での繁栄政策やポピュリズムの台頭を招く結果となった。欧米社会では産業雇用の減少と中産階級の縮小が進み、こうした雇用の一部はアジアに移転して成長を促した。しかし、安価で若い労働力への依存は、この労働力の減少とともに次第に問題となっている。例えば、輸出志向の工業化によるマレーシアの成長と、香港から他のアジア諸国への半導体生産の移転は、この傾向を浮き彫りにしている。

一部のアジア諸国、特に中国が技術的に進歩する中で、新たな課題に直面している。それは人口高齢化への不十分な社会制度である。低税率と最低限の福祉で競争することで賃金を下げてきたが、安価な労働力が失われるにつれ、このモデルは成り立たなくなっている。輸出、不動産開発、ハイテク、国内消費を原動力とする中国経済は、複数の課題を抱えている。



地政学的緊張が輸出に影響を及ぼし、不動産セクターは危機に瀕し、ハイテクは雇用を奪う可能性があり、国内消費はまだ十分に発展していない。より良い未来への希望を維持するためには、中国などの国はサービス部門を強化し、労働力を確保して雇用を創出しなければならない。経済モデルの転換が必要である。減税や優遇措置で競争するのではなく、賃金や環境基準における底辺への競争を避け、より高い基準を目指すべきである。またAIの台頭は、中国が最先端の電話機製造の労働者の需要を減らしているように、雇用の確保にも脅威をもたらす。欧米が常にアジア製品の主要消費者であるという過去の前提はもはや通用しない。アジアの生産能力と技術革新力は相当だが、将来的には、高齢化社会に対応した介護職など、AIでは容易に代替できない分野に投資する必要がある。貿易摩擦や地政学的緊張に備えることも重要である。



Datuk Wira Mohd Hatta bin Md. Ramli 議員（マレーシア）

**Datuk Wira Mohd Hatta bin Md. Ramli 議員（マレーシア）**：近代化の影響で、マレーシアの平均寿命は76歳になった。しかし、現在の世代はこの年齢まで達しない可能性が高い。行政的な問題は別として、注目されているのは「活力ある高齢化」である。例えば、日本は効率的に自助努力と地域社会への支援を行っており、我々に貴重な教訓を与えてくれる。我々は、身体的健康、精神的幸福、社会的貢献を含む活力ある高齢化の概念を見直すべきである。これは、家族への過度な負担となることを避け、人的資源を効率的に管理するために極めて重要である。

世界的に見れば、人口の9%が65歳以上である。我々は3つの重要な分野に取り組む必要がある。

1. **ビジョンの設定**：近代化と技術導入の必要があり、医療システムだけに頼ることはできない。医療従事者のトレーニングが不可欠である。我々は進歩に適応し、より高度な分野で必要性に直面している。
2. **移動・生活水準**：中国やインドのように人口14億人規模の大国に目を向け、彼らの経験から教訓を得ることができる。人口3,300万人のマレーシアは、大国とは異なる課題に直面している。他国がどのように高齢者人口に対応しているかを検討し、関連する戦略と我々の置かれた状況を照らし合わせる必要がある。
3. **より効果的な高齢者人口への対応**：高齢者のための経済的支援や、コミュニティ施設を改善する必要がある。日本やシンガポールには、高齢者のための収入創出のための活動や、新技術の導入などの成功事例がある。マレーシアでは、高齢者に対する経済的支援は限られており、高齢者のためのそのような機会を増やしていく必要がある。シンガポールは、高齢者が働くためのより良い機会を提供しており、これは参考にすべきモデルである。

世代間プログラムは、年齢差別に対応し、社会的包摂を促進することを目的としており、これは極めて重要である。豊富な人生経験を持つ高齢者は、若い世代に貴重な知識を共有することができる。例えば教育的な取り組みに貢献し、多様な分野で指導を行うことができる。高齢者の生活環境において安全性と利便性を考慮することは不可欠である。施設を設計する際には、移動手段に問題を抱えている人を含め、高齢者のニーズに対応すべきである。中国をはじめとする国々は、医療やテクノロジーの進歩を通じて、高齢化する人口の多様なニーズに対応するために大きく前進している。タイもまた、高齢者のための地域密着型プログラムや社会的支援の取り組みを行っている。

アジアの高齢化は、医療の進歩、生活水準の向上、社会規範の進化といった要因の影響を受けており、日本、韓国、中国、シンガポールのような急速な高齢化を経験している国々は、高齢者人口を支えるために様々な施策を実施している。

**日本**：高齢者に優しい都市づくりの先駆者であり、広範な支援と先端技術を提供している。

**シンガポール**：健康的な高齢化を促進し、収入を得るための活動を支援し、世代間交流プログラムを奨励している。

**韓国**：社会保護と高齢者に優しい環境に重点を置いている。

**中国**：医療インフラや高齢者向けの多様な施策に投資している。

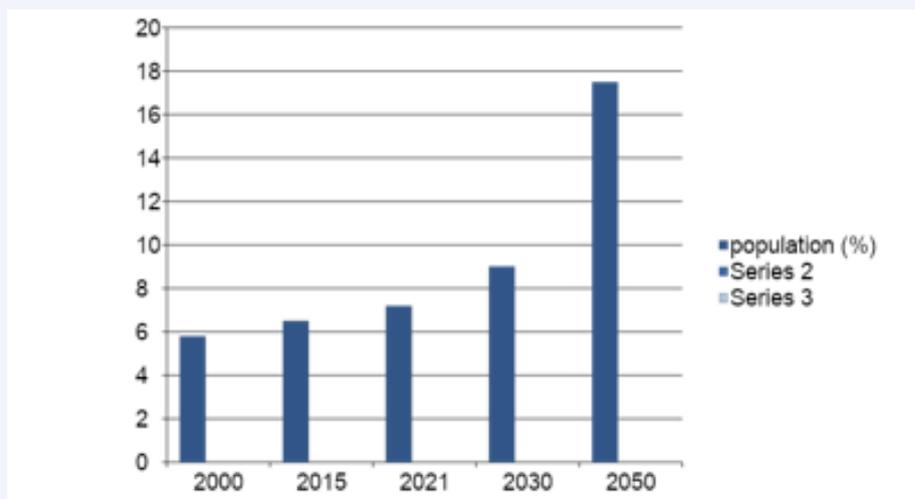
**タイ**：地域に根ざした活動、ヘルスケア・サービス、社会支援活動などを行っている。





Kolakanh Phommavong 議員（ラオス）

**Kolakanh Phommavong議員（ラオス）**：ラオスは、人口は700万人以上の内、60歳以上の高齢者人口は50万人以上である。これはラオスが高齢化社会に近づいていることを意味する。



#### ラオスの高齢者人口

- ◆ 2015年：15人に1人が60歳以上  
60歳未満=93.5%
- ◆ 2030年：11人に1人が60歳以上  
60歳未満=90.98%
- ◆ 2050年：6人に1人が60歳以上  
60歳未満=82.5%

課題：ラオスは、40万人以上がこのシステムに未登録であるという課題を抱えている。データ収集は非常に困難である。2001年以降、政府は重要な試運転やプロセスの改善を支援している。こうした取り組みは、ヘルスケア、相互医療保護、高齢者福祉のためである。さらに、教育やデータ・情報の提供は、高齢者の収入、認知機能、生活能力を保障する上で重要な役割を担っている。ラオスの課題としては、貧困層のデータ収集、予算不足、農村部の設備不足などがある。そのために人々は都市部での就労のために移転を余儀なくされている。データによると、ほとんどの高齢者は電話回線にアクセスできない農村部に住んでいる。これに対し、今やAIやテクノロジーは必要不可欠なものである。しかしながら、農村部に技術を提供するための予算が不足している。

政策と立法：

- 2002年「高齢化に関するマドリッド国際行動計画 (MIPAA)」
- 2015年「ASEAN加盟国における高齢者のエンパワーメントへのASEANの共同関与」、マレーシア・クアラルンプール
- 2016年 ASEAN+3「活力ある高齢化に関する声明」、ラオス・ビエンチャン
- 2004年「高齢者のための国家政策の承認と公布に関する政令」、ラオス
- 2021年 高齢者に関する法令



Datuk Hajah Mumtaz binti Nawawi議員（マレーシア）



**Datuk Hajah Mumtaz binti Nawi議員（マレーシア）**：ASEAN地域では、宗教と信仰は人々の生い立ちと人生の根幹をなすものである。我々は、誰もが年々年老いて、高齢になるという事実を受け入れている。教育と高齢化に関する分野は、高齢者に携わる全ての人々に理解されなければならない。事務処理能力があること、また若者によるサポートがあれば、高齢者の自立した生活の助けとなる。そして、忍耐強く、コミュニケーション能力に優れ、そして器用な友人や家族の存在が不可欠である。一般的に、家族の介護は自発的であり、また家族の仕事であると考えられている。しかし、国、地域、州レベルで、この課題を理解するための政策をさらに進めるべきである。介護は単なる家族の仕事ではない。

パンデミック・ヘルスケアとは、医療従事者を除き、介護対象者に個人的なケアを提供するすべての個人と定義される。家族のためにプロの介護士を雇いたい場合、通常の料金は2,000～3,000マレーシアリングットである。これは介護士として働く人にとって高額である。しかし、介護を家族で行う場合、適切な報酬が支払われることはない。この問題を我々は検討するべきである。介護を単なる自発的な犠牲とみなすのではなく、システム化し、それを一種の収入として考えるべきである。また高齢者1人に対して、家族1人だけに頼ることはできず、通常は2～3人で介護を交代する必要がある。

国家政策として、介護を職業として定義すべきである。この政策の指揮は社会福祉部門が担い、人材部門のキャリアとして考慮されるべきである。インフォーマルケアとは、一般的に介護が子ども、配偶者、親戚などによって提供されるものである。もし配偶者がパートナーの面倒を見なければならなくなったり、高齢者や病人の介護を主として行わなければならなくなったら、仕事を辞めなければならぬ人もいるだろう。このような状況が1990年代から認識されるようになり、政府も民間も地域に根ざした介護や自立支援に重点を置いた公式な介護サービスを提供している。

単に介護を形式化するだけでなく、家族による介護の訓練も行うべきである。介護者が適切な訓練を受けずに高齢者介護に対応すれば、彼らの健康に悪影響を及ぼしかねない。適切な技術や知識を、一般教育や学校のカリキュラムに含めるべきである。

高齢者のための保健センターに関する計画を、女性・家族・社会開発省（Ministry of Human Family and Community Development）の下で検討すると、これは女性や家族の問題であると誤解する人が出てくるだろう。この計画は、全省庁においてSDGsと同様に重視されるべきであり、全ての部門において、



高齢の従業員、利用者、顧客にサービスを提供するための体制を整えるべきである。また、高齢者介護のための包括的な監督体制を構築し、全ての施設の認可・監督を行い、高齢者のための質の高い介護を提供すべきである。

アジアにおける高齢化は、21世紀の最も重要な人口動態の1つであり、経済的に困窮することなく、質の高い医療サービスを受けられる体制をつくることは不可欠である。2050年までに、アジア太平洋地域の4人に1人が60歳以上になると予測されており、この地域の高齢者数は2020年の6億3,000万人から約13億人へと増加する見込みである。中国、日本、韓国、タイなどの国々は、出生率の低下と平均寿命の伸びにより、特に急速な高齢化を経験している。

2020年、アジアの人口は45億人を超え、65歳以上の高齢者は推定4億1,400万人になる。この数は大幅に増加すると予想されており、2060年にはアジアで12億人以上が65歳以上になると考えられている。この人口動態の変化は、高齢化社会を支えるためのヘルスケア、社会保障制度、政策拡充の問題を含め、様々な社会的・経済的課題となっている。

持続可能な開発のためには、増大する高齢者人口を適切に受け入れ、高齢者の社会的貢献を評価し、高齢者が貧困や社会的排除に直面しないよう、社会・経済システムを整備することが不可欠である。

#### UHCと対策

- 手の届く価格での提供。PeKa B40やMadaniヘルス制度のような、低所得者層向けの一般税で補填される公的医療。
- 遠隔医療と移動診療所
- 利便性の向上。遠隔地におけるインフラ整備。
- 高齢者保健プログラムと高齢者のための国民医療政策

サービスには、ヘルス教育、検診、在宅介護、リハビリなどが含まれる。

- 生涯学習と教育の促進
- 医療と長期的ケアの強化
- テクノロジーとイノベーションの活用
- 社会的包括性の推進と孤独感の解消
- 雇用とボランティアの機会創出



## 国の高齢化政策を支える国家の取り組み

1. 高齢世代による委員会の設立
2. 高齢者向けの政策策定
3. 高齢者の活躍表彰
4. 高齢者向け行動計画

## ディスカッション

質問1：各国が採用できる施策はあるか、またマレーシア政府はどのような政策・取り組みを実施しているか。

回答：国家政策は政府レベルで策定されるが、州レベル、さらには地方自治体レベルで適応され、実施される必要がある。例えば、州の取り組みは、地方や国家の取り組みを促進することができる。取り組みの1つとして、専用の財源による高齢者のためのコミュニティづくりが挙げられる。これを支援するために、高齢者だけでなく、より広範な地域社会、特に失業に関するコンプライアンス遵守措置が必要である。子どものための地域プログラムがあるように、高齢者のための家族支援プログラムも必要である。こうしたプログラムには、退役軍人や著名な高齢者も含まれるべきである。

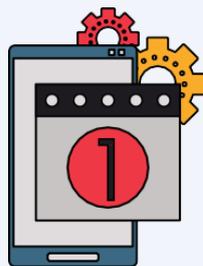
さらに、各都市は高齢者のための具体的なビジネス方針を定め、世帯、国会議員、政策立案者のための行動計画を策定するべきだ。大学の研究に基づき、世帯が実践するための有効な助言やチェックリストを提供できる。また各省庁や産業界は、それぞれの基準に従って高齢者向けの制度や支援を設けるべきである。さらに高齢者の基本的な権利やニーズは他のグループとは異なるため、高齢者相談センターの設置が不可欠である。このようなセンターを通じて、高齢者特有のニーズに対応し、彼らが適切な支援と援助を受けられるようにする。

質問2：イニシアティブを考案した際、政府の承認をとりつけているのか。こうした取り組みについて話を聞くことは参考になる。年間の取り組みなど、この課題への対処方法について意見を伺いたい。



回答：例えば、経済について調べたいのであれば、国家レベルでは高齢者委員会が内閣総理大臣の下に設けられているということを知っておく必要がある。この委員会の長は女性であることが多い。同様の委員会を各省庁にも設置する場合は、各種の団体からの代表者を選出し、その取り組みに基づく年次報告書を作成すべきである。ケアエコノミーについては、専門の委員会を設けるべきである。社会の高齢化が進むにつれ、高齢者は経済において不可欠な存在となり、労働人口の20%を占める可能性もある。従ってケアエコノミーの分野は、専門家、大学、NGOなどから情報や助言を得て、国会議員として特別な政策を策定に取り組む必要がある。経済と教育の観点から、この問題は体系的に取り組むべきである。こうした問題を断片的に検討するだけでは十分ではない。人口の20%が高齢者になることを考えれば、あらゆる産業がこの課題を検討すべきである。我々は2017年までに国会議員、政策立案者としてこの問題に備えるべきであった。事前に政策を整備することで、高齢者層を支援するための予算や施設を確保することができる。共通の論点である高齢化と介護の仕事に取り組むには、効率的な管理や責務について考慮することが重要である。この問題への適切な対処方法や、年間を通じたイニシアティブを確立する方法について模索する必要がある。適切な対策の1つとして、関係機関ごとにグループ化し、特に子どもたちのための資金調達と福祉を重点的に進めることである。包括的なアプローチを実施するためには、政府との協力体制が不可欠である。地域開発において実質的な支援を受けられることが重要であり、これは相応の責任を持って実施されるべきである。





## SESSION 2

### 高齢化への備え：技術的支援



Tiffany Oon Malaysia One Hundred代表（マレーシア）



Hajah Halimah Ali議員（マレーシア）

**Hajah Halimah Ali 議員（マレーシア）**：高齢化社会を支えるテクノロジーの役割として、デジタルヘルス・サービスが挙げられる。特にアジア諸国、マレーシアにとっても、健康管理やアシスティブ・テクノロジー（障がい者の自立した生活を支援するための技術や装置、サービス）において不可欠である。マレーシアでは、65歳以上の国民の割合が顕著に増加している。2024年現在、この年齢層は人口の8.1%を占め、2040年には14.5%まで上昇すると予測されている。この大幅な増加は、国のケアシステムに多大な負担をかけることになる。

しかし、テクノロジーの急速な進歩は、高齢者の生活を向上させる上でまたとない機会を提供している。高齢者特有のニーズに対応するために設計されたテクノロジーは世界的に認知されつつあり、高齢者に関する政策の中心に据えられるべきである。日本と韓国は、独自のテクノロジーによって高齢者ケア、社会保障、医療サービスの変革に大きく前進している。例えば、日本は高齢患者に寄り添い、ストレスを軽減するセラピー効果を目的としたロボットを開発した。人との対話から学習し、顔を認識し、愛情を持って対応するセラピーロボットは、高齢者の間で高い人気を博している。韓国ではAI技術が高齢者介護施設に組み込まれ、入居者の健康状態や活動レベルをモニタリングしている。AIシステムにより、電話を受けたり、睡眠パターンを観察したり、異常行動を介護者に知らせたりすることができ、安全性を高め、対処に要する時間を改善できる。他にも、一人暮らしの高齢者にロボットが付き添い、必要に応じて緊急サービスを呼ぶことができる。



ロボットは、高齢患者の食事介助や掃除などの作業をサポートすることができる。またAIロボットは、高齢患者の自立を支援するような形で高齢患者の介助を行うこともできる。技術の進化は急速に進んでいるが、今後も高齢化社会のニーズ、特にヘルスケアの強化や活動の促進に対応した対策が求められている。



多くのアジア諸国は、依然としてバーチャルコミュニケーション（インターネットやその他の通信手段を用いて、離れた場所にいる人々とコミュニケーションをとること）に必要な技術やインターネット環境に課題を抱えている。地理的な条件の差、費用、インフラ格差などの問題により状況は複雑である。

マレーシアでは、高齢者ケアにおけるAIやロボットの活用はまだ初期段階にある。しかし、有望な進展もある。学術・研究機関では、高齢者ケアのためのAIを活用した解決策を模索しており、検出機器、リハビリ用器具、シミュレーション・スーツ（障がいや加齢に伴う身体の制限を体験できるように設計されたスーツ）による健康啓発に焦点が当てられている。こうした研究から得られた成果を社会サービス全体に取り入れ、研究から実用化へと移行することが極めて重要である。遠隔医療サービスなどのデジタル技術や情報通信技術を活用して医療やヘルスケアを向上する方策は、医療システムに統合され、利便性と安全性を高めてきた。このようなサービスにより、遠隔地からの診察やモニタリングが可能になり、医療施設への物理的な通院の必要性が減少する。

課題：こうした技術の導入・拡充には、高齢者が安心して利用できるようにするための国の支援と教育プログラムが必要である。それに加え、プライバシーとセキュリティを確保するために、強固なデータ保護対策を実施することも非常に重要である。特に接続環境が制限されがちな農村部では、デジタル・インフラを強化するために、デジタル格差を解消することが不可欠である。マレーシアでは、高齢者のためのアシステッド・テクノロジーの導入に力を入れている。政府の取り組みには、車椅子のような移動補助装置の提供や、自立して生活する高齢者の安全性と快適性を高めるためのスマートホーム技術の開発などがある。高齢者ケアと教育を一体化させる技術の推進は不可欠である。コミュニティセンター、NGO、教育機関は、高齢者のテクノロジー・リテラシー（テクノロジーを使用、理解、評価する能力）を向上するためのトレーニングプログラムを主導する必要がある。これには、高齢者がデジタル機器やアプリケーションを十分に活用できるようにするためのワークショップ、初心者向け指導、個別支援などがある。手の届く価格で利用できるかどうか、依然として大きな障壁となっている。利用しやすくするためには、補助金制度、助成金、技術提供者との提携を模索することが不可欠である。政府及び民間部門は、高齢者にとって必要不可欠な機器やサービスを手の届く価格で利用できるよう、財政的な支援を優先して取り組むべきである。高齢者の価値観に沿った倫理基準を守りながらテクノロジーを取り入れることが重要になる。AI、ロボット工学、デジタルヘルスソリューション、及び補助技術を導入し活用することで、高齢者の生活の質を大幅に向上させ、自立と幸福度を高めることができる。このビジョンを現実のものとし、高齢者が尊厳を持って生活し、社会に積極的に貢献できるよう協力を呼び掛けたい。





Avinash Rai Khanna 元議員（インド）・IAPPD副議長

**Avinash Rai Khanna IAPPD副議長（インド）**：親／年配者を大切にすることの重要性と、現代のアジア地域、インドにおける神の存在：

- アジアは急速な人口動態の変化を経験しており、高齢化率が大幅に上昇している。
- この傾向は、アジア大陸全体の社会、経済、医療のあり方を変えつつある。
- アジア全体では、高齢者の割合は2022年から2050年の間に13.7%から35.7%に増加すると予想されている。
- インドは若者人口が多い国だが、高齢者人口の増加率は急速に高まっている。
- インドの近年の急速な高齢化の傾向は、今後数十年続くと考えられる。
- 60歳以上の人口に占める割合は、2022年の10.5%から2050年には20.8%にまで増加すると予測されている。

高齢者介護における自分の経験：

現代では、皆が神への信仰を深めるために特別な努力を行っているが、彼らが見落としているのは、親や年長者の世話をすることが、神への一番の近道だということだ。

ある事例：

この事例は、祖父を老人ホームから連れ戻すよう小さな子どもが両親にせがんだ話である。両親はともに多国籍企業に勤めており、子どもの世話は家庭教師や使用人に面倒を見てもらっていた。

祖父の影響：

祖父が家族に加わったことで、子どもの生活全般が好転した。祖父は人生において貴重な知識を授け、子どもは試験で優秀な成績を取めるようになった。

年長者の重要性：

この事例は、我々の生活における年長者や両親の重要性を示す最適な例であり、社会において高齢者施設の必要性が高まっていることに対する中で、解決策を提示している。

我々の取り組み：

この話に触発され、様々な教育機関において学生を対象とした啓発セミナーを開始した。我々は、年長者を敬うことの重要性を強調し、学生たちが模範となるよう奨励している。

模範的な家族の表彰：

我々はまた、非常に困難な状況下で年長者や両親の面倒を見ることで模範を示した家族を表彰している。

大学生の取り組み：

JaijonにあるBaba Augarh Fateh Nath Girls女子大学の学生等は、我々の指導の下、村の年長者たちと一日一緒に過ごし、彼らの家事を手伝った。この経験は学生たちにとってかけがえのない経験となった。



## ＊ ディスカッション

質問1：私の両親は、電子決済サービスなど、あらゆるテクノロジーを使いこなすのに苦労している。デジタルリテラシーを向上させ、AIを導入する取り組みはあるか。

A：世界には豊富な資源があるが、その多くが十分に活用されていない。私は州政府にこの問題を提唱し、教育や資源開発の重要性を議論する機会を設けるべきだと提案してきた。例えば、現在多くの人々が電子書籍やその他のデジタルコンテンツを好んで読み、物理的な図書館に足を運ぶことにあまり興味を示さなくなっている。しかし、公共図書館を活用し、高齢者の関心を引き、世代間ギャップを埋める方法を考えるべきである。孤独や人との繋がりを欠くと感じていることが多い高齢者は、彼らのニーズに合わせた活動やプログラムから恩恵を受けることができるだろう。これには、身の回りの世話や、様々なアプリケーションを含む技術を効果的に使うためのトレーニングも含まれる。さらに高齢者と若年層の世代間格差への対応も重要である。若い世代は、高齢者のニーズや経験について十分に理解したり、感謝することがないかもしれない。このギャップを埋めるために、我々は公共図書館やコミュニティセンターが両者を歓迎し、サポートするような政策を提唱することが必要だろう。

質問2：デジタルリテラシーは、今後10年、20年後も引き続き大きな問題として残るかどうか尋ねたい。私の見解では、我々が40歳になる頃、親世代はすでにスマートフォンの使い方を知っていて、デジタルリテラシーも十分だと思う。

A：我々の世代と比べればそれ程問題ではないと思われる。我々が若かった頃は、こうした機器やインターネットに触れる機会が少なかった。我々は公共図書館に通い、紙ベースの資料を使っていた。今日のテクノロジーは、20年後、10年後、あるいは来年にもまた違ったものになっているだろう。我々は、現在の問題や人口動態の変化に対応するために、さらなる進歩、革新、そして即興性を見て、常に変化に備えていなければならない。例えば、祖父母は、忙しい子ども世代よりも孫世代の方が打ち解けて話しやすいと感じることがある。これは、高齢者と孫世代間のメンタルヘルスに役立つ可能性がある。若い世代からの新しいアプローチを取り入れることは、非常に有意義であると言える。





## SESSION 3

# ケアエコノミーにおけるテクノロジー、イノベーション、 官民パートナーシップ



1. ケアエコノミーの概念と、マレーシア及びASEAN諸国にとってのその意味を検討する。有償・無償を問わず、経済や社会における介護業務の重要性について論じる。
2. ケアエコノミーにおける AI、ロボット、その他の技術革新の果たす役割を探る。テクノロジーによる介護サービスの効率性と質の向上、また介護分野における雇用機会への潜在的な影響について議論する。
3. ケアエコノミーの発展と持続性における官民パートナーシップの役割について議論する。両部門のリソース、専門知識、イノベーションを活用できる連携モデルを探る。



Hairil Fadzly bin Md Akir

マレーシア国家人口家族計画局事務局次長

**Hairil Fadzly bin Md Akir氏（マレーシア）**：ケアエコノミーとは、現在および将来の人口を育み、支えるケアやサービスを提供する部門である。有償・無償の両方が含まれ、正規・非正規の介護業務を含む。



### ケアエコノミー：

1. 定義：現在及び将来における人口の育児・介護などのケアとそのサービスに関する経済活動。
2. ゆりかごから墓場までのケアエコノミー：ケアエコノミーには、有給労働（正規・非正規の両部門で雇用される）と無償労働が含まれる。

### ケアエコノミーの国家への影響：

3. 投資のメリット：ケアエコノミーへの投資は、適切な介護制度を構築し、労働力として働く女性の数を増やすことで、労働市場における男女格差を改善することができる。不十分な労働基盤は、女性の労働参加を著しく阻害し、仕事の選択、報酬、キャリアアップを制限する。
4. 国際的背景：国際労働機関（ILO）によれば、無償の介護労働の76%は女性が担っている。無償の介護労働を認識し、その軽減と再配分を促すような介護制度が適切に機能するようになれば、介護労働者により多くの、高賃金の仕事を創出でき、男女格差の是正に不可欠な介護労働者としての地位を確保することができる。
5. 経済への影響：無償の介護労働をGDPに含めると、経済成長を大幅に押し上げる効果があると判明している。例えば、マレーシアの家庭における無償の介護労働は3790億リングットに達し、サービス産業の5分の1を占める。
6. 雇用創出：ケアエコノミーへの投資によって、2035年までに世界で3億人の雇用を創出する可能性がある。この投資は、貧困や男女不平等への対処にも貢献し、生涯にわたって必要不可欠なサービスの提供にも繋がる。
7. 人口転換：社会の高齢化と労働力の減少によって、介護需要が急増し、ケアエコノミーへの投資拡大が必要となる。

### 出産/産後ケアに関する問題：

8. 現状の課題：毎年平均50万人の出産数があり、若い母親の70%近くが、従来のマッサージサービスや産後ケアを求めている。しかし、現在の施術者と産婦の比率は1：26と、出産した母親が十分な産後ケアサービスを受けることは困難な状況にある。



9. 解決策：デジタル・プラットフォーム「MamaCare」の導入。このプラットフォームは、各個人にあわせたケアや様々なサービスを提供する施策である。サービスを向上させるためには、サービスの質と法に基づいた運営を保証し、受益者と公共の利益を守るための取り組みの拡充と施行が必要である。

経済社会における介護労働の重要性：

10. 経済的推進力：ケアエコノミーは経済成長の潜在的原動力である。GDPの数字に無償の介護労働を計上し、正当な評価をすることで、経済精算が大幅に向上する可能性がある。
11. 政策提言：「ゆりかごから墓場までのケアエコノミー」の構築は、戦略的投資と政策措置を通じて介護労働を支援し、質の高いサービスを保証し、経済成長を促進するための強固な枠組みを提供することができる



Nadiah Hanim Abdul Latif マレーシア稀少疾患協会理事長

**Nadiah Hanim Abdul Latif 氏**  
**(マレーシア)：**ケアエコノミーを推進する上で、テクノロジー、イノベーション、官民パートナーシップが相互に複雑に関与する。議論ではしばしば、柔軟な介護制度、医療費補助、そして従事者の業務改善に焦点が当てられるが、我々は、男性、子ども、そしてあらゆる年齢の人々を含む全てのグループを考慮しなければならない。

12. 稀少疾患は世界中で約3億人に影響を及ぼしており、その数はHIV感染者と癌患者を合わせた数よりも多く、糖尿病患者の数にも近い。現在7,000以上の稀少疾患があり、その有病率は様々だが、一般的に稀で、出生4,000人に1人しか罹患していないことが多い。
13. マレーシアでは、疼痛や症候群のような病態は350万人に1人という希少なものであり、その集団的影響が大きいにも関わらず、政策や予算編成において見過ごされがちである。こうした疾患は、一般的な疾患と同様のケアを必要とする。
14. 稀少疾患患者の約95%は、治療を受けることができない。治療には多額の費用がかかり、生涯にわたることも多く、診断が何年も遅れることも頻繁にある。稀少疾患の70%は小児期に発症するため、誰もが罹患する可能性があり、より広範なケアエコノミーへの配慮が必要である。



マレーシア希少疾患協会は18の学会を支援し、32以上の支援団体を運営している。我々は、インドの2021年政策の導入に続き、2024年末までに国家希少疾患政策を実施することを目指している。我々の戦略は、政策提言、連携、そして支援活動の実現に重点を置いている。希少疾患や障がいを持つ人々は単なるサービス利用者ではなく、適切な支援によって社会への大きな貢献が可能となることを認識する必要がある。高額な治療費は大きな課題である。例えば、痛みを伴う皮膚の異常が生じるバタフライ症候群の一部の治療は国民保険でカバーされている。

2065年までにマレーシアは超高齢国家となり、介護者の課題が増加すると見込まれる。その中でテクノロジー、AI、適応可能な身体装着装置などは、地域社会での共生と医療システムの改善を促進する。AIやロボット工学は、疾患の早期発見を促し、血友病などの治療方法の進歩に役立つ。イノベーションによって治療の頻度を減らすことができれば、患者の生活を大きく改善する可能性がある。他国で成功した手法を検討し、自国のニーズに適応させることで、希少疾患への対応を改善することができる。実際に、マレーシアは様々な治療法を承認し、各関係者と協力して差別・偏見への対処や、新生児スクリーニング検査の改善に努めている。希少疾患患者の多くが就職で難に直面し、そのため個人事業主となっている。彼らが社会で問題なく生活できるように支援し、課題を成長の機会と捉えることで、サービス提供と社会共生を促進することができる。省庁の垣根を超えた統合的なサービスと、官民一体の取り組みに焦点を当て、持続可能で手の届く価格の治療法を提供し、ケアエコノミーへの効果的な介入を行うことが必要である。

## ディスカッション

質問1：介護スキルを身に付けるにはどうしたらいいか？（特に家族間で行う場合に）「Mama Care」のような介護者のための制度やプログラム、専門的な知識はどのように取得できるのか、関連するプログラムやリソースがあったら教えて欲しい。

回答：ソーシャルワークには、20以上の国家基準があり、現在も有効である。Bamakaもその1つで、20以上の基準がある。高齢者であれ、家族であれ、障がいを持つ人であれ、全ての介護者がこれらの基準を満たすよう、トレーニングを提供している。私は全国患者教育技術研修協議会のメンバーであり、この10年間、ケアエコノミーについて議論してきた。これまで実施されてきたこと、そしてこれから実施すべきことを認識しつつ、より根本的な観点から検討する必要がある。



ベトナムでは、復職する母親、家庭に専念することを選ぶ母親の双方を支援するための社会的取り組みや従来の取り組みが大幅に増加している。こうしたアプローチには、ギグエコノミー（単発の仕事を中心とした働き方・経済形態）やケアエコノミーへの統合も含まれる。現在、インドネシア、ベトナム、インドでも同様の動きが見られるが、そこでは子どもの人権教育、栄養指導、児童保護といった過程の審査を受け、研修を受けたベビーシッターのデータベースを社会的企業が構築している。これにより、無作為に選ばれた人物ではなく、資格を持っている人物によって質の高い保育サービスが提供されるようになる。



## SESSION 4

### ケアエコノミー：資金調達と持続可能性



1. ケアエコノミーの今後：ケアエコノミーの今後の動向と課題について議論する。強靱で持続可能なケアエコノミーを構築するために、ASEAN諸国との協力やパートナーシップの可能性を探る。
2. 介護者の認識と支援：ケアエコノミーにおける介護者の認知と支援の戦略について話し合う。介護従事者の労働条件、賃金、権利を改善するための政策とイニシアティブを探る。
3. ケアエコノミーへの融資：公的資金、民間投資、社会保険制度など、ケアエコノミーの様々な資金調達モデルについて討議する。ケアエコノミーの拡大するニーズを支える革新的な資金調達メカニズムと持続可能な財政戦略を探る。



**Indera Mohd Shahar bin Abdullah議員・  
財政・経済特別委員長（マレーシア）**：

COVID-19や人口動態の変化など、世界的な課題が山積する中、高齢者ケアに必要な資金を調達し、維持することが急務である。アジアの高齢者人口は2050年までに13億人に達すると予測され、マレーシアの高齢化人口は2030年までに人口の15%を占めると予想されることから、この成長分野を支援する強固な政策と戦略を実施することが重要である。公的資金、民間投資、社会保険制度を活用した包括的な資金調達戦略を提唱したい。

長期的な介護のための補助金、公的医療施設の拡大、手の届く価格の介護サービスなどに取り組む必要がある。また、介護産業の経済的可能性と、優良事例や政策を共有し、アジア諸国間の協力を促したい。公正な賃金、良好な労働条件、権利に基づいて介護従事者への支援を促し、全ての個人に対する敬意、尊厳、配慮に根ざした持続可能な介護環境を作る上で、国会議員が極めて重要な役割を果たす。





**Raoul Manuel議員（フィリピン）**：ケアエコノミ―の最前線で働く介護者への支援に対して、認識を強化すべきである。高齢者のケアは不可欠であり、同様にケアを提供する人々が十分な支援を受けられるようにすることも重要である。これには公的及び民間からの経済的支援を含め、介護者福祉の様々な支援が含まれる。人口開発委員会が強調しているように、フィリピンでは高齢化が進み、特に60歳以上の人口増加が著しく、大きな人口動態の変化が起きている。この変化は我々の社会に大きな影響を与える。フィリピンでは、多世代同居の伝統が強いため、多くの家族が家庭内で高齢者の世話をしている。そのため、高齢者の身体的、精神的、心理的ニーズに対応する必要がある。

さらに、より良い雇用機会を求め、多くのフィリピン人が海外で働いている。このため現政権は、フィリピン人労働者、特に介護分野の労働者が、家族の元を離れて海外に出稼ぎに行く必要がないよう、国内の雇用条件の改善に力を入れている。フィリピンでは介護士の需要が高まっており、この傾向がもたらす社会的影響に対処することは非常に重要である。政府は、労働者が国内に留まるにせよ、海外で働くにせよ、国内の状況を改善し、労働者を保護することに全力を尽くしている。こうした課題に対応するために、フィリピンは2023年11月23日に介護福祉法を制定した。この法律は国内外を問わず、フィリピン人介護従事者の包括的な保護を目的としている。この法律は、フィリピン政府と受け入れ国が協力し、介護従事者が尊厳をもって扱われ、虐待、ハラスメント、暴力、経済的搾取から保護されることを保証する必要性を唱えている。介護福祉法は、介護従事者を18歳以上の個人と定義し、児童労働に関する懸念にも対応し、個人宅や介護施設を含む様々な環境で働く介護者に適用される。この法律は、地域の就職フェアや民間の斡旋業者など、雇用元に関係なく、全ての介護従事者を対象としている。またこの法律は、男女ともに介護の役割を担うことを奨励することで、男女平等にも貢献している。



虐待を防止し、雇用条件を明確にするため、雇用契約は双方が理解できる言語で、勤務開始前に締結することを義務付けている。介護従事者の福利を保護するため、法律では労働時間を1日8時間以内に制限し、時間外労働や夜勤の手当を定めている。賃金は商品やサービスなどではなく、現金で支払わなければならない。介護者は13ヶ月目の給与を受け取る権利がある。雇用主は適切な宿泊施設と基本的な生活必需品を提供する必要があり、介護者が雇用主の自宅に居住する場合は、個室での睡眠を確保しなければならない。虐待や違反に直面した介護従事者は、契約を解除して補償を求める権利を有する。介護福祉法の施行は、移民労働局、労働・雇用省及び技能教育・技能開発局によって監督され、フィリピン人介護従事者が国内外で相応の保護と支援を受けられるようにする。

### Sri Wulan Sutomo Jasmin 議員 (インドネシア)

インドネシアは34の州からなる多様な国土を有し、様々な社会経済状況が存在する。これらの州の大部分は農村部であり、教育へのアクセスや、資源不足といった問題に直面している人々も多い。高校までの教育を義務付ける法的枠組みがあるにも関わらず、特に農村部では、人々が利用しにくい状況にあるために、法的枠組みの実施と乖離がある。さらに高齢者の多くは十分な政策支援を受けることができていないため、高齢者特有の課題に直面している。政府の高齢者向け保険は、高齢者のニーズを補う経済的支援を提供することで、こうした問題に対処することを目的としている。



この高齢者保険は、他の財源から追加で拠出することが出来るマッチング・プリンシプル（費用収益対応の原則）に基づき運営されている。高齢者の多くは、依然として非正規雇用の農業などに従事している。高齢者の就労を継続する理由として、恐らく経済面での必要性和、退職後の十分な支援がないためである。家族にとっても、状況は複雑である。特に、高齢の両親の介護をしながら、自分たちの生活との両立を図らなければならない人々にとっては深刻である。自宅で暮らしている高齢の家族を、自分たちの元に引き取ることも特に困難である。

Program Keluarga Harapan (Family Hope Program, PKH) という包括的な福祉政策がある。現金給付の代わりに家族福祉カードを発行している。必要不可欠なニーズにより効果的に対応し、直接現金給付に伴うリスクを軽減している。また、研修や能力開発の機会を提供し、参加者のスキルや機会を向上させ、長期的な利益をもたらすことを目指している。このプログラムはまた、子どもへのワクチン接種の義務化など、基本的な保健ニーズに対応するよう、一定の条件を課している。



**Chua Choon Hwa女性・家族・地域開発省副次官（マレーシア）**：インドや中国を含むアジアは人口が最も多い大陸である。合計特殊出生率は年々低下している一方で、人々の平均寿命は延びている。以前は、出生数が増えており、今後の持続可能性やことや経済面への影響について議論した。出生数が減少するにつれて、全体的な費用も削減されることが予想される。もう一つの側面は、相当数の人が100歳以上生きるというデータがある。例えば、日本には100歳以上の人が9万2000人いる。マレーシアでは現在、100歳以上の人が1000人を超えた。

人々の長寿化は、我々全員にとっての課題である。財政的な影響を考え、高齢化社会に必要なケアを準備する必要がある。現在、首相のリーダーシップの下、マレーシア政府は教育と経済的機会に焦点を当て、こうした問題に取り組んでいる。マレーシアでは、男性の就労率は82%であるのに対し、女性は56.2%である。そのため公平な就労や、それに関連する法的コストにも取り組む必要がある。今後、介護業界で働く人たちのために施設を作り、研修や資格を得られる環境が作られると考えている。高齢者介護サービスを、施設だけでなく家庭でも受けられるようにする必要がある。施設数が減れば、支援やより良い介護サービスの必要性が高まる。これは我々が取り組むべき重要な課題であり、テクノロジーと人材の両面で多大な投資が必要となる。



Ranking Aged Nation Among ASEAN Countries		
No	Country	Percentage
1	Singapore	16.6
2	Thailand	12.9
3	Vietnam	8.3
4	Malaysia	7.2
5	Myanmar	7.0
6	Brunei	6.4
7	Indonesia	6.1
8	Philippines	6.0
9	Cambodia	4.7
10	Laos PDR	4.3

マレーシアでは、施設ではなく家庭内で介護するのが理想的だと考えられている。政府はこうした取り組みやNGOへの資金援助を通じて支援している。また政府と民間セクターがこうしたサービスを直接提供するべきか、それともサービス提供のモデルを変えるべきかを検討する必要がある。マレーシアは、高齢者と障がい者の両方が質の高いケアとサポートを受けられるようにするという目標を掲げている。

## ❁ 閉会式

**Noraini binti Ahmad** 議員女性・家族・地域開発副大臣（マレーシア）：UHC、技術、イノベーション、官民パートナーシップ、経済的持続可能性のバランスなど、重要なトピックが議論された。宣言は、各個人をエンパワーメントし、健康と権利を支援する政策とプログラムの重要性を強調している。また、目標を効果的に実施するために、ASEAN加盟国間の協力を奨励している。アジアにおける高齢化には、注意を払い、しっかり準備することが重要である。マレーシア政府は高齢者の福祉と幸福に力を注ぎ、その戦略として高齢者福祉の促進、世代間の連帯、調査研究などに取り組んでいる。高齢者の社会貢献を評価し、奨励することは、社会の発展にとって極めて重要である。

2008年、マレーシアはThe Third Age大学を設立した。政府はまた、従業員のための自発的退職貯蓄制度も開始した。日本のようなロボットシステムの統合やスウェーデンの包括的な社会福



祉プログラムなど、世界的な優良事例から学ぶことは、文化的に適切で持続可能な戦略を実行するのに役立つ。

アジアにおけるシルバーエコノミーは、ヘルスケア、技術、金融サービスにおけるイノベーションの機会をもたらす。国会議員として、我々は高齢化社会への備えを強化するために、自国の変革をリードしていかなければならない。



## ATTACHMENTS

### Attachment 1 : 会議プログラム

**Parliamentarians' Regional Meeting on Ageing Preparedness and  
Care Economy in Asia  
18 July 2024, Kuala Lumpur, Malaysia**

**Agenda**

Time	Activity
<b>Meeting: July 18, Thursday</b>	
8:30-9:00	<b>Registration</b> Venue: Ballroom, Seri Pacific Hotel, Kuala Lumpur
9:00-9:50	<b>Opening Ceremony</b>  MC: <b>Ms. Mazidah binti Mohamed</b> , Parliament of Malaysia  Welcoming Remarks ➤ <b>Hon. Howard Lee Chuan How</b> , Vice President of AFPPD Malaysia  Opening Addresses ➤ <b>Hon. Dato Sri Alexander Nanta Linggi</b> , President of AFPPD Malaysia ➤ <b>Hon. Tan Sri Dato' (Dr.) Johari bin Abdul</b> , Speaker of the House of Representatives
9:50-10:00	<b>Group Photo</b>
10:00-10:30	<b>Coffee Break</b> Venue: Ballroom Foyer
10:30-11:20	<b>Session 1: "UHC and Ageing Preparedness":</b>  1. Active Ageing Programs: Discuss the current active ageing programs in Asian countries. Evaluate their effectiveness and identify areas for improvement. Explore how AI or technological support can enhance these programs and improve outcomes for the elderly.  2. Universal Health Coverage (UHC): Assess the UHC infrastructure in participants' countries for elderly care. Discuss the integration of local support and the need for improvement and pthe otential solutions.  3. Caregiver Support: Explore the challenges faced by caregivers in Malaysia and other Asian (ASEAN?) countries. Discuss what kind of parliamentarians' solutions can provide better support and resources for caregivers, such as remote monitoring systems or caregiver assistive technologies.  Chair: <b>Hon. Howard Lee Chuan How</b> , MP Malaysia  Presentation (10 minutes each) ➤ <b>Hon. YB Liew Chin Tong</b> , MP Malaysia ➤ <b>Hon. Senator Datuk Wira Dr. Mohd Hatta bin Md. Ramli</b> , MP Malaysia ➤ <b>Hon. Dr Kolakanh PHOMMAVONG</b> , MP Lao PDR ➤ <b>Hon. Datuk Hajah Mumtaz binti Md. Nawi</b> , MP Malaysia  <b>Question and Answer</b>

11:20-11:30	<b>Short Break</b>
11:30-12:40	<p><b>Session 2: "Ageing Preparedness": Technological Support</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Technology in Ageing: Discuss the role of technology in supporting ageing populations. Explore AI, robotics, and other technological advancements that can improve the quality of life for the elderly. Discuss challenges and opportunities in implementing these technologies.</li> <li>2. Digital Health Solutions: Explore digital health solutions, such as mobile apps, wearables, and remote monitoring systems, that can empower the elderly to manage their health and well-being. Discuss the benefits, risks, and ethical considerations of these technologies.</li> <li>3. Assistive Technologies: Discuss assistive technologies that can support the elderly in daily activities, mobility, and independent living. Explore innovations in smart homes, mobility aids, and other assistive devices.</li> </ol> <p>Chair: <b>Ms. Tiffany Oon</b>, CEO of Malaysia One Hundred</p> <p>Presentation (10 minutes each)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>Hon. Dr. Hajah Halimah Ali</b>, MP Malaysia</li> <li>➤ <b>Mr. Avinash Rai Khanna</b>, Vice-Chair of IAPPD</li> </ul> <p><b>Question and Answer</b></p>
12:40-13:30	<p><b>Lunch Networking opportunities</b> Location: Zende Restaurant, Seri Pacific Kuala Lumpur</p>
13:30-14:50	<p><b>Session 3: Technology, Innovation, and Public-Private partnership in "Care Economy"</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Examine the concept of care economy and its implications for Malaysia and ASEAN countries. Discuss the significance of care work, both paid and unpaid, in the economy and society.</li> <li>2. Explore the role of AI, robotics, and other technological advancements in the care economy. Discuss how technology can enhance the efficiency and quality of care services, and the potential impact on job opportunities in the care sector.</li> <li>3. Discuss the role of public-private partnerships in developing and sustaining the care economy. Explore collaborative models that can leverage resources, expertise, and innovation from both sectors.</li> </ol> <p>Chair: <b>Hon. Howard Lee Chuan How</b>, MP Malaysia</p> <p>Presentation: (10 minutes each)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>Mr. Hairil Fadzly bin Md Akir</b>, Deputy Director of the National Population and Family Development Board (LPPKN)</li> <li>➤ <b>Ms. Nadiyah Hanim Abdul Latif</b>, President of the Malaysian Rare Disorders Society</li> </ul> <p><b>Question and Answer</b></p>



14:50-15:00	<b>Short Break</b>
15:00-16:10	<p><b>Session 4: Care Economy: Financing and Sustainability of Older Persons Care</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>Future of Care Economy:</b> Discuss the future trends and challenges in the care economy. Explore potential opportunities for collaboration and partnerships between Malaysia and ASEAN countries to build a resilient and sustainable care economy.</li> <li>2. <b>Caregiver Recognition and Support:</b> Discuss strategies to recognize and support caregivers in the care economy. Explore policies and initiatives that can improve the working conditions, wages, and rights of caregivers.</li> <li>3. <b>Financing the Care Economy:</b> Discuss different financing models for the care economy, including public funding, private investments, and social insurance schemes. Explore innovative funding mechanisms and sustainable financial strategies to support the growing needs of the care economy.</li> </ol> <p>Chair: <b>Hon. Howard Lee Chuan How</b>, MP Malaysia</p> <p>Keynote Speech (10 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>Hon. Dato' Indera Mohd Shahar bin Abdullah</b>, MP Malaysia, Chair of the Special Select Committee on Finance and Economy</li> </ul> <p>Presentation: (10 minutes each)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>Hon. Raoul Manuel</b>, MP Philippines</li> <li>➢ <b>Hon. Sri Wulan Sutomo Jasmin</b>, MP Indonesia</li> <li>➢ <b>Mr. Chua Choon Hwa</b>, Deputy Secretary General of the Ministry of Women, Children and Community Development</li> </ul> <p><b>Question and Answer</b></p>
16:10-17:00	<p><b>Roundtable Discussion</b></p> <p>Opens with Concluding Remarks: <b>Hon. Howard Lee Chuan How</b>, MP Malaysia</p>
17:00-17:40	<p><b>Closing</b></p> <p>MC: <b>Ms. Mazidah binti Mohamed</b>, Parliament of Malaysia</p> <p>Addresses</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>Hon. Datuk Seri Dr. Noraini binti Ahmad</b>, Deputy Minister of Women, Family and Community Development of Malaysia</li> </ul>
<b>Departure: July 19, Wednesday</b>	
<b>END OF PROGRAM</b>	

**Organized by:**

The Asian Forum of Parliamentarians on Population and Development (AFPPD) Malaysia  
The Asian Population and Development Association (APDA)

**Supported by:**

United Nations Population Fund (UNFPA)



## ATTACHMENT 2 : 参加者リスト



**REGIONAL PARLIAMENTARIANS MEETING ON AGEING  
PREPAREDNESS AND CARE ECONOMY IN ASIA  
18 JULY 2024, KUALA LUMPUR**

**LIST OF PARTICIPANTS**

**AFPPD MALAYSIA**

1. HON. DATO SRI ALEXANDER NANTA LINGGI
2. HON. MR. HOWARD LEE CHUAN HOW
3. HON. DR. MOHAMMED TAUFIQ BIN JOHARI
4. HON. DATUK SERI DR. NORAINI BINTI AHMAD
5. HON. SEN. DATUK WIRA DR. MOHD HATTA BIN MD. RAMLI
6. HON. DATUK WILLIE ANAK MONGIN
7. HON. MS. ISNARAISAH MUNIRAH BINTI MAJILIS
8. HON. MR. MUHAMAD ISLAHUDDIN BIN ABAS
9. HON. DATO' MOHD ISAM BIN MOHD ISA
10. HON. DR. HALIMAH BINTI ALI
11. HON. DATUK VERDON BIN BAHANDA
12. HON. MR. CHIEW CHOON MAN
13. HON. MR. FONG KUI LUN
14. HON. DATO' MOHD SHAHAR BIN ABDULLAH
15. HON. MUMTAZ BIN MD. NAWI

**KPWKM / LPPKN**

1. MR. ISMAHALIL BIN ISHAK
2. DR. KHANSA BT ABD HALIM
3. MRS. NORHASLINDAH BINTI HASSIM
4. MR. MOHD. KHAIRI BIN NASIR
5. MRS. AINI FAZANA BINTI ZAINAL ABIDIN
6. DR ZILAL BINTI SAARI
7. DR. KOMATHY THIAGARAJAN
8. MRS. MOHD FIRDAUS MAZALAN
9. MR. SALLEHUDDIN BIN ISMAIL
10. MR. MD NOH BIN SAIMAN
11. MS. KHUZAILAH BT AFFANDI
12. MRS. NUR FARAHUDA BT ABDUL RAHIM



**UNFPA MALAYSIA**

1. TENGKU AIRA TENGKU RAZIF
2. SHIAU YUN CHONG
3. MR. MOHAMAD SUFIAN
4. JOLYN LOK
5. ADRIANNA FARID
6. DAVEENA KAUR

**INDONESIA**

1. HON. SRI WULAN SUTOMO JASMIN
2. MR. SAMIDJO

**CAMBODIA**

1. HON. SENG NHAK
2. YOUN TITHKAKADA
3. YOUN TITMAKARA

**INDIA**

1. MR. AVINASH RAI KHANNA
2. MR. MANMOHAN SHARMA

**LAO PDR**

1. HON. KETMANY BANDASACK
2. HON. KOLAKANH PHOMMAVONG

**PHILIPPINES**

1. HON. RAOUL DANNIEL A. MANUEL

**VIETNAM**

1. HON. NGUYEN HOANG MAI
2. HON. MME. NGUYEN HOANG UYEN

**JAPAN**

1. MS. HITOMI TSUNEKAWA





### **UNFPA VIETNAM**

1. MR. VU THI BINH MINH

### **Y-PEER**

1. MR. MUKESH KUMAR SHAH (photo & video)
2. MS. TAWANSHINE LEKPETCHSAWANG (rapporteur)

### **PARLIAMENT OF MALAYSIA**

1. AZREEN HANIZA ABDUL HAI
2. ROZANA BINTI ABDULLAH
3. NURAINI BINTI ROSLAN
4. DR. NUR AZYAN SHALIAH BINTI MOHD SHAFEE
5. SAYANI BINTI UMAR
6. NURUL SAFFIDA BINTI KUSAINI
7. MUHAMMAD ANAS BIN KHAIRUL ANUAR
8. AZRI NORFIKRI BIN AZIZ
9. NUR DIYANA INDAH BINTI CHUDRI @ KHUDRI
10. NURUL FADHILAH BINTI IBHARIM
11. HAMIZAH BINTI BAHARUDDIN
12. MOHSIN BIN ABDUL MALEK
13. KLAUS RANGGA JULIAS LOUIS
14. NUR HIDAYAH BINTI MD. AMIN
15. MOHD AZHARI BIN ISMAIL
16. MOHD MOHSIN GHANI BIN ESAN GHANI
17. MOHD SHAHAR BIN MD SABRI
18. NUR SHAZA IZWANI BINTI ABD KARIM
19. AWANGKU SALLEH BIN AK ATOH

### **OFFICE OF IPOH TIMOR CONSTITUENCY**

1. MUHAMMAD AZEEM BIN MOHD LENIN
2. YEONG SENG HOONG
3. LEE TECK KHEN
4. KAVEESHANTH RAJ A/L JAIARAJO
5. THIRUTHANIGESH A/L SHUNMUGHAM
6. WAFFI IZZUDDIN BIN ADAM
7. TIFFANY OON MIN-I



報告書の作成・デザイン：

Sangeet Kayastha、Nishant Kumar、Noravit Suwanviwatana (Ravit)、Tawanshine Lekpetchsawang (Nui)、YPEER アジア・太平洋センター、AFPPD、APDA

写真：

Mukesh Kumar Shah

会議ビデオ：

<https://youtu.be/oXtauXnDFXY>

会議資料はAPDAにお問い合わせ下さい。画像やハイライトビデオはウェブサイトやSNSにて公開中。



その他最新情報・出版物

Website: [www.apda.jp](http://www.apda.jp)

Twitter: [www.twitter.com/apda\\_jp](https://www.twitter.com/apda_jp)

Facebook: [www.facebook.com/APDAJapan](https://www.facebook.com/APDAJapan)

Instagram: [www.instagram.com/apda\\_japan](https://www.instagram.com/apda_japan)

